News Letter　2020.1.15　第 88 号

たちばな
京都大学男女共同参画推進センター
Gender Equality Promotion Center

日本放射線影響学会第６回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー

11 月 14 日（木）に、百周年時計台記念館にて「日本放射線影響学会第６回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー」が開催されました。

第一部では、稲葉 カヨセンター長、理事・副学長より「京都大学における男女共同参画の取り組み」について講演が行われました。稲葉理事は、京都大学男女共同参画のこれまでの流れや、男女共同参画推進センターの取り組み・ホームページ等について、４つのワーキンググループの活動を中心に紹介しました。最後には「男女共同参画の実現に向けて、女性側の意識改革や自身の能力を最大限に発揮する努力が大切です。」と述べ、参加者は興味深く聴いていました。第二部では「放射線影響科学から広がる多様な道　～年代・性別の枠を超えて～」と題したパネル討論が行われました。会場の方々のリアルタイム意識調査を行い、放射線影響科学から広がるキャリアパスについて、経験や考えを共有しながらの活発な意見交換がなされました。

長期履修制度

在学中に学業と出産・育児を両立することになった学生にとっては、標準修業年限での修了は難しくなります。また、親の介護を担うことになった学生にとっても、同様のことが当てはまります。

留年するとなると、授業料負担が重くのしかかる上に、留年のせいで将来的に不利に扱われるかもしれません。そうかといって休学すると、休学中は授業を受けられず、研究費による旅費補助を受けての出張もできなくなるばかりか、保育所の利用が認められないおそれもあります。このような不利益は、経済的・身体的に重くのしかかるだけではなく、場合によっては、学業自体を諦めることにもつながりかねません。

こういったジレンマが、もし長期履修制度が利用できたなら、解消するかもしれません。長期履修制度とは、大学（院）設置基準の定めに基づく制度で、職業を有する等の事情のある学生が、標準修業年限の授業料で長期の計画的な履修を可能にする制度です。ウェブ検索すると全国の大学（院）で導入が進んでいることが分かり、出産・育児・介護も事情として認められているところが多いと分かります。

本学でも、この制度に関する上位規定があり、導入する準備はできています。しかし、実際に学生が出産・育児・介護を理由としてこの制度を利用するには、学部・研究科においてこの制度を運用するための規程が整備され、利用可能な事由として出産や育児、介護が挙げられている必要があります。農学研究科や情報学研究科など既に出産等を理由とした利用が認められているところがあり、工学研究科でもこの 10 月から同様の手当てがなされるなど、本学でもこの制度の導入は広がりつつあります。「京都大学　長期履修制度」で検索すると情報が手に入ります。

学業と出産・育児・介護の両立は難しく、志半ばで学業の継続を断念する人が後を絶ちません。場合によっては、本人に意欲があるにもかかわらず、「育児・介護をしなければならない身で学生を続けるのは贅沢だ」とか「子どもがいる女性に研究は無理だろう」という周りの無理解のために、不本意ながら学業を諦めるケースもあるのではないかと想像されます。ケアが必要な人が身内にいながら学業を続けるには、たくさんのサポートとともに周りの温かい理解が必要です。家族や社会に支えられ、育児・介護をしながら学生を続けることが、ごく当たり前の風景になる時代が到来するよう願っています。

コラム「みんな　どうしてる？」バックナンバー　http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/column/mina/

（文責　育児介護支援事業 WG、専用アドレス：ikwg@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp）

第 14 回女子中高生のための関西科学塾

11 月 10 日（日）に京都大学にて、「女子中高生のための関西科学塾」が開催されました。このイベントは、関西の大学が中心となり女子中高生を対象に理科実験教室などを行う企画で、2006 年から開催しています。第 14 回目となる今回は大阪市立大学が幹事校となり、京都大学、神戸大学、大阪大学、奈良女子大学、大阪府立大学、中西金属工業株式会社などが参加しました。京都大学では小グループに分かれて様々な実験を行い、大学の研究を体験しました。

特別授業　岡山県立岡山操山中学校

11 月 15 日（金）に岡山県立岡山操山中学校の生徒 19 名、引率教員 2 名が東南アジア地域研究研究所を訪問しました。

東南アジア地域研究研究所のセミナー室にて、同研究所の帯谷 知可准教授がウズベキスタンのイスラーム・ヴェール問題について講義を行いました。帯谷准教授は、ウズベキスタンの 20 世紀中のヴェール根絶運動の歴史や現代の新しいヴェール「ヒジョブ」着用問題について、伝統的ヴェールの実物や様々なヴェールの写真を見せながら話し、「女性たちがヒジョブを着けるのは、一人の意志ある女性として、自分らしい生き方や幸福を模索した結果なのではないか。」と述べました。参加した生徒は、先生の話に熱心に耳を傾けていました。その後の質疑応答では、積極的に質問をしたり、ウズベキスタンの伝統的ヴェールを実際に着用したりしました。

京都大学女性教員懇話会セミナー

11 月 26 日（火）12 時 15 分より男女共同参画推進センターの会議室にて、女性教員懇話会主催の懇話会セミナーが行われました。国際高等教育院の吉田 万里子教授より「平等な機会と待遇に係る労働法と社会保障法についての国際比較～欧州法における「働く女性」の扱い～」と題して講演がありました。吉田教授は、ドイツと日本の産休・育児制度や給付金、就業形態などを比較し、欧州の男女均等待遇法制についても紹介され、「日本の男女均等待遇は改善しつつあるものの、非正規雇用や社会保険制度、法制度の遅れ等まだまだ課題があり、一般社会・家庭内でも意識改革を行うことが大切。」と述べられました。その後、参加者から様々な質問や意見が寄せられ、有意義な時間となりました。

附属病院　オープンホスピタル

11 月 2 日（土）10 時から 16 時まで医学部附属病院外来棟アトリウムホールでオープンホスピタル（病院見学会）が開催され、そこに病児保育室「こもも」がポスター参加をしました。議題は「京大病児保育室について」「隔離室について」「保育室での遊びについて」で、病児保育室の利用方法や隔離室での様子、保育室での過ごし方等について、詳しく紹介しました。

女子高生・車座フォーラム 2019

12 月 22 日（日）10 時より、京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホールにて「女子高生・車座フォーラム 2019 」を開催しました。このフォーラムは、男女共同参画推進センターが中心となり、女子高生に京都大学での学生生活や研究者の仕事を知ってもらおうという企画です。今回で 14 回目の開催となり、高校生 111 名、保護者 49 名の参加がありました。お越しいただいた皆様、この度はご参加いただきありがとうございました。

当日の詳しい内容につきましては、次号の第 89 号と HP にも掲載致しますので、そちらをご覧ください。

Women and the World フォーラム 6

3 月 3 日（火）12 時～13 時 30 分に Women and the World フォーラム 6 を開催します。ランチミーティングとなりますので、昼食をご持参ください。詳細につきましては、HP のお知らせをご覧ください。

連載：研究者になる！－第 75 回－

高等研究院物質―細胞統合システム拠点・教授
深澤 愛子

●化学者になって新しい物質を創りたい

科学者のルーツを辿ると、多くの場合が子供時代から自然や科学に触れ…というのが多いですが、私自身は幼い頃は本が好きなインドア派、科学とはあまり縁のない幼少時代を過ごしていました。そんな私が科学者を志した契機は間違いなく高校時代にあります。私の母校は、とにかく生徒の自主・自立性を重んじる学校で、まさに「出ていない杭は打たれる」雰囲気のもと、文化祭などの行事の企画や討論合宿で徹底的に意見をぶつけ合うことで、何事も主体的に考え周囲を巻き込みながら行動する力がついたと思います。理系科目では実験に重きが置かれ、自分たちで実験を計画するチャンスもあり、本当の意味での科学の面白さに触れることができました。次第に、新しい物質を生み出せる化学に魅力を感じるようになり、京大工学部工業化学科を目指すことにしたのは、高校 3 年生になった頃です。それまで学校行事や部活のバスケットボールに熱中していたため全くの実力不足でしたが、そこから猛勉強し、何とか合格。入学後は、サークル活動・アルバイト・趣味を謳歌し、試験直前になって勉強を詰め込むという当時の典型的な京大生で、気ままな生活を謳歌していました。

●生活スタイルが一変、研究漬けの毎日に

そんな気楽な生活が一変したのは、研究室に配属された 4 回生のときでした。新しい物質を創り出したいという初心を思い起こし、有機合成化学の研究室に飛び込みました。3 回生までの実験では、結果が既に分かっている実験を行い基本操作や原理を習得するのに対し、研究室ではこれまで誰も作ったことのない物質の合成に取り組みます。最初にもらったプロジェクトは、ケイ素どうしの結合をもつ新しい有機化合物を合成し、その性質を明らかにするというものでした。合成の難しさから研究が一向に前に進まず、それまでの生活スタイルとの落差も激しかったこともあり、心身の調子を崩しかけたこともありました。でも、研究室の先輩や同期からの玉石混交の様々なアドバイスのおかげで（笑）、「多様な考え方に触れ、自らで考え取捨選択しながら進んでいけばいい」と思えるようになり、何とか乗り越えられました。その後はとにかく文献を読み漁り、時には研究室の別のグループの先生や近隣研究室の先輩にも自分から議論を持ちかけ、実験を重ねることで着実に解決への糸口を見出し、3 年半かけてようやくまとまった成果を出すに至りました。当初は博士課程への進学は考えていませんでしたが、いつの間にか研究の面白さに魅了され進学し、その後大学で研究する道を選択し、今に至っています。私が現在取り組んでいる研究は、革新的材料の創製を目指した新しい有機分子の創出です。優れた光・電子機能をもつ新物質の創製は、持続可能な社会の実現の根幹を担う重要課題であり、かつ材料への応用に直結する可能性をもつため、有機・無機材料問わず世界中で活発に研究されています。私はむしろ基礎科学としての側面に強い興味があります。これまで実現できないだろうと考えられていた未踏物性や機能への挑戦は、科学の常識を覆すチャンスを秘めているからです。もちろん既存の技術の改良に確実に貢献する物質創製も重要ですが、私たちは既に誰かが可能性を示した応用の方向性に囚われず、さらにその先を目指し、ユニークな有機分子のデザインを起点に、合成、機能開拓に取り組んでいます。

●今を大切に、そして楽しく

研究者である夫と結婚し、子どもが産まれてからは、今まで研究一色だった生活は驚くほど変化しました。さらに京大への異動に伴い夫とは別居を余儀なくされているので、研究の時間を今まで通りに確保することは非常に困難です。それでも、「研究と育児の両立」や「ワークライフバランス」という言葉には抵抗があります。私にとってワークはライフの一部であり、研究と育児は天秤にかけられるものではなく、一方のために他方を犠牲にすると捉えたくないからです。まずは自分と家族の健康を第一に、あとは完璧を目指し過ぎず、頼れる人やモノには割り切って頼ること。恩師の玉尾皓平先生（京大名誉教授）の言葉である「今を大切に、そして楽しく」をモットーに、その都度全力で取り組むしかないと思っています。今は京大で自分の研究グループを主宰するようになって間もなく、まだ何も大きなことは成し遂げられてはいませんが、これまで誰も思いもよらなかった“不可能を可能にする分子”を創り出し、世界をあっと驚かせたい。研究のワクワク感、自分の手でスゴい新物質を生み出した瞬間の震えるような喜びを、学生、研究員のみんなと共有し、有機化学、マテリアルサイエンスの新境地を開拓していきたいです。

編集後記

女子高生・車座フォーラム 2019 が無事終了いたしました。高校生には、京都大学での学生生活や研究者の仕事について知ってもらういい機会になったことと思います。アンケートでいただいたご意見を来年度に生かしていきます！

Gender Equality Promotion Center

〒 606-8303　京都市左京区吉田橘町
電話　075（753）2437
FAX　075（753）2436
E-mail　w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
HP　http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/